



農地の先に聳える詰所
(2015年4月 石坂 愛 撮影)

地理空間学会ニュースレター

TOPICS

- ・第8回大会のお知らせ
- ・第8回大会巡検のご案内
- ・学会賞受賞者コメント(植村円香)
- ・大会優秀ポスター賞受賞者コメント(吉次 翼)
- ・ミニコラム「地理学の聖地をめぐる」(橋爪孝介)
- ・学会からのお知らせ
- ・コラム「わたしのフィールドから」(石坂 愛)

JAGS



第8回大会のお知らせ

地理空間学会では、第8回大会を下記の通り開催いたします。

【日 程】

2015年6月20日(土): シンポジウム, 一般口頭発表, ポスター発表, 評議員会, 総会(学会賞表彰を含む), 懇親会

6月21日(日): 巡検(千葉県柏市)

【会 場】

筑波大学 筑波キャンパス(茨城県つくば市天王台 1-1-1)

○総合研究棟 A

- ・シンポジウム, 一般口頭発表, 総会: 1 階 A110
- ・ポスター発表: 1 階 A107 ・評議員会: 2 階 A205

○第二エリア小食堂: 懇親会

【交 通】

○つくばエクスプレス「つくば駅」下車, A3 出口より 6 番のりばへ向かい, 関東鉄道バス「筑波大学循環(左回り)」または「筑波大学中央」行きに約 10~15 分乗車, 「筑波大学中央」下車, すぐ。

(アクセス案内)

https://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba_access.html



(参考)

つくばセンター6 番のりばのバス発車時刻は下記 URL
の時刻表 (PDF ファイル) により、ご確認ください。

https://www.kantetsu.co.jp/bus/rosen/timetable/timetable/center/06_new.pdf

【大会参加費】

○会員

・学部生・院生：無料 ・一般：500 円

○非会員

・学部生：無料 ・院生：500 円 ・一般：1,000 円

【懇親会費】

・学部生・院生：3,000 円 ・一般 5,000 円

【プログラム】6 月 20 日 (土)

9：30～ 受付開始 (総合研究棟 A 1 階ホール)

10：00～12：00 シンポジウム「消滅自治体論を批判する
ー地理学からの反論ー」(A110)

12：00～13：00 昼休み (12：00～12：50 評議員会)

13：00～15：40 一般口頭発表 (A110)

15：40～16：20 ポスター発表コアタイム (A107)

16：25～17：15 会長講演 櫻井明久 (駒澤大)「地理学
研究と地理教育との間」(A110)

17：15～18：00 総会 (表彰含む, A110)

18：15～ 懇親会 (第二エリア小食堂)

情報は地理空間学会 HP <<http://jags.ne.jp/>> にて随時更新
いたします。お問い合わせは地理空間学会集会委員会
<jags-meeting@geoenv.tsukuba.ac.jp> へお寄せください。

【シンポジウム】

「消滅自治体論を批判するー地理学からの反論ー」

○オーガナイザー 須山 聡 (駒澤大)

○発表者・題目

を事例にー

S01 藤永 豪 (佐賀大)：中山間地域における高齢者によ
る農業の存続実態とその意義ー背振山麓の
集落調査をとおしてー

S03 林 琢也 (岐阜大)：「取り残される農村」は消滅して
いくのか？ー郡上市和良町での「経験」と
それをもとにした「反証」ー

S02 植村円香 (秋田大)：離島における高齢者主体の「小
さな経済」ー東京都利島村のツバキ実生産

S04 市川康夫 (筑波大)：フランス農村における高齢者と
過疎化問題

【一般口頭発表】 13:00～15:40 (交代時間を含み 1 発表 20 分)

(司会) 101-102 兼子 純, 103-104 橋本雄一, 105-106 磯野 巧, 107-108 横山 智

101 13：00～13：20 石川真弓 (高崎経済大・院)：戦前
日本におけるラジオの普及と地域社会の対
応ー群馬・埼玉を事例としてー

103 13：40～14：00 坂本優紀 (筑波大・院)・小林博樹
(東京大)・中村和彦 (東京大・特任研究員)・
斎藤 馨 (東京大)：石川県金沢市における用
水路の音環境と住民評価

102 13：20～13：40 小林岳人 (千葉県立松戸国際高)：
地理的興味の対象としてのオリエンテーリ
ング

104 14：00～14：20 川瀬正樹 (広島修道大)：スウェー
デン・イエーテボリにおける居住分化とイ
ンフラ整備

105 14:20～14:40 澁谷和樹（立教大・院）：旅行プログラムを用いた観光行動の時空間分析―訪都外国人旅行者を対象に―

106 14:40～15:00 堀本雅章（法政大・国内研究員）：限界集落における観光地化と島民意識―食堂・民宿開業後の沖縄県宮古島市大神集落の事例―

107 15:00～15:20 丸山宗志（立教大・院）・大塚直樹（亜細亜大）：ホーチミンシティにおけるバックパッカーエリアの空間的特徴

108 15:20～15:40 白坂 蕃（東京学芸大・名誉）・渡辺悌二（北海道大）：パミール高原北部のアライ谷における牧畜

【ポスター発表】 10:00～16:20 （コアタイム 15:40～16:20）

P01 磯野 巧（徳島大）：徳島県徳島市における観光ボランティアガイドの知識習得形態

P02 竹下和希（筑波大・院）：長野県出身大卒者のライフコースとその規定要因

P03 名倉一希（筑波大・院）：群馬県におけるスキー場経営体の変化―スキー観光衰退期に着目して―

P04 松原伽那（筑波大・院）：屋形船の水辺観光空間―隅田川沿いを事例として―

P05 橋爪孝介（筑波大・院）：里海創生事業の地域的役割と可能性―三重県志摩市における計画と実践から―

P06 小林 愛（筑波大・院）：伝統的祭りの変容と地域とのかかわり―新潟県小千谷市片貝地区の「片貝まつり」を事例に―

P07 富田厚志（筑波大・院）：川崎市多摩川崖線軸における緑地保全活動

P08 麻生紘平（筑波大・院）：大田区の基盤的技術産業における外部経済―2014 年に廃業した一事業所の取引関係に注目して―

P09 遊佐 暁（筑波大・院）：静岡県静岡市駿河区用宗地区における高度経済成長期以降の漁村及び漁民の生活の変遷



第8回大会巡検のご案内

6月21日（日）に大会巡検がございます（雨天決行）。

【巡検テーマ】

変わる柏のまちづくり

―スマートシティと駅前再開発を巡る―

【オーガナイザー】

木村祐介・栗林 慶・坂本優紀・羽田 司・

包 慧穎・矢ヶ崎太洋（筑波大・院）

【趣旨】

千葉県柏市は東京大都市圏の主要都市である。特に柏駅

周辺は柏市および広域な商業地の中心として発展してきた。一方で、近年のつくばエクスプレスの開通に伴い、柏の葉キャンパス駅周辺では産官学連携都市が計画され、スマートシティの在り方が模索されている。この異なる発展を辿った2つの地域を巡り比較することで、今後の郊外都市の発展を議論する。

【集合場所・時刻】

9:30 つくばエクスプレス（TX）柏の葉キャンパス駅
改札口前

【解散場所・時刻】

16:30 JR 常磐線北柏駅

【行程】

TX 柏の葉キャンパス駅（集合） → こんぶくろ池 →
東京大学柏の葉キャンパス → 柏の葉公園 → TX 柏

の葉キャンパス駅 → 柏駅（昼食） → 柏二番街商店
街 → 柏神社 → 手賀沼周辺 → 北千葉第二機場
→ 北柏駅（解散）

【参加費】

500 円（保険料） ※昼食代，交通費別

※巡検の参加には事前の申し込みが必要です。

巡検参加ご希望の方は、電子メールにて、件名に【巡検
申込み】、本文に参加者（全員分）の氏名、フリガナ、所
属、生年月日、当日連絡のとれる携帯電話連絡先、メール
アドレスを明記の上、矢ヶ崎 ([tyagasaki@geoenv.tsukuba.
ac.jp](mailto:tyagasaki@geoenv.tsukuba.ac.jp)) までご連絡ください。

締め切りは 6 月 16 日（火） です。具体的な巡検行程、

最新の情報につきましては、地理空間学会 HP
(<http://jags.ne.jp/index.html>) に随時掲載します。なお、誠
に勝手ではありますが、巡検行程や巡検の形式上、定員を
30 名程度といたします。また、締め切り以前でも定員に
達し次第、受付を締め切らせていただくこともありますの
で、ご容赦ください。



学会賞受賞者コメント

この度、地理空間学会 2014 年度学会賞の奨励賞を受賞された植村円香会員から受賞のコメントをいただきました。

奨励賞 植村円香会員（秋田大）

2014 年度地理空間学会賞（奨励賞）をいただき光栄で
す。受賞対象となった 3 論文（「東京都利島村のツバキ実
生産による高齢者の生計維持」地理学評論 84（3）、「高齢
離職就農者による柑橘農業の実態とその意義—愛媛県岩
城島を事例として—」経済地理学年報 59（1）、「高齢化に
伴う果樹複合産地の変容—長野県飯田市・高森町の干し柿
生産を事例に—」地学雑誌 122（3））は、大学院生時代に
執筆したものです。いずれも離島や中山間地域など地理的
条件不利地域における高齢者の農業を描きました。

大学院生だった当時は、フィールドワークを楽しみつつ
も、思い通りに研究が進まないことに対する不安や焦りな
ど様々な葛藤がありました。今となってみれば、葛藤が論
文のなかに見え隠れしているのではないかと冷や汗もの
です。ただ、当時は勉強や研究を存分にできる時間と先生

や院生同志に恵まれ、充実した日々を過ごすことができま
した。なかでも、地理空間学会に所属されている先生方や
院生（当時）の方々には、勉強会や学会などを通じて、多
くのご助言や励ましのお言葉をいただき、研究を続けるう
えで大きな原動力となりました。ここに記して御礼申し上
げます。

秋田大学に赴任して早 1 年が経ちましたが、「高齢者と
農業」を考えるにはとてもよいところです。これからは、
農村とじっくり向き合い、汗をかきながら農村を歩き回る
なかで研究を蓄積していくと同時に、より大きなテーマに
も挑戦していきたいと考えています。地域に寄り添える研
究者を目指して日々精進いたします。まだまだ未熟ではご
ざいますが、これからもご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い
いたします。



大会優秀ポスター賞受賞者コメント

第7回地理空間学会大会（2014年、立教大学）において優秀ポスター賞を受賞された吉次 翼会員から受賞のコメントをいただきました。

優秀ポスター賞 吉次 翼会員（慶應義塾大・上席研究員）

このたびは、「東日本大震災を契機とした住宅再建・集団移転事業の現状と課題—宮城県沿岸15自治体を対象として—」に対し、地理空間学会ポスター賞を賜り、大変光栄に存じます。共著者である慶應義塾大学大江守之先生・一ノ瀬友博先生、筑波大学矢ヶ崎太洋氏をはじめ、調査研究にご協力いただいた皆様方に心より御礼申し上げます。

本研究は、東日本大震災の地震・津波被災地で行われている「高台移転」によって、被災地の都市構造がどのように変化しうるのかについて、広域的・空間的・事業手法横断的・時系列的に分析したものです。被災地における高台移転は、津波対策としての有効性や従前集落ごとの移転によってコミュニティを維持するという含意によって支持

されてきたものの、実際には、小規模分散的な集落形成がなされつつあり、当初の復興構想とは大きく異なる現実が浮かび上がりつつあることを報告いたしました。

発表当日は、「高台移転に伴う生活環境の変化を一層精緻にシミュレーションすべきではないか」「被災市街地や集落の小規模分散化を受け入れたうえで、持続可能なまちづくり・むらづくりを進めていくためには、どのような施策が考えられるか」等々、多くの方から建設的なご助言・ご指導をいただくことができました。被災地の住宅再建・高台移転には、まだまだ長い時間を要しますが、今後とも研究活動を通じて復興のお手伝いをする事が出来ればと考えております。引き続き、ご指導のほど何卒よろしくお願いいたします。



ミニコラム 「地理学の聖地をめぐる」No.2 橋爪孝介（筑波大・院生）

ドイツ・フランクフルトにあるシュテーデル美術館は、オランダ人画家ヨハネス・フェルメールが制作した「地理学者」（原題：De geograaf）という絵画を所蔵しています。この作品には、机の上に地図を広げ、コンパスを手に持ち、ガウンを羽織った「地理学者」が描かれています。背後の棚には地球儀が置かれています。窓から室内に差し込む光の表現は、フェルメールの絵画の特徴であり、同時期の作品「天文学者」よりも室内を明るく照らしています。

「地理学者」は、フェルメールが描いた現存するわずか2点の男性単身像のうちの1つであり、彼自身の傑作であるとともにオランダ黄金期を代表する作品の1つとして

高く評価されています。また主題が地理学者であることから、世界中の地理学者からも愛される作品となっています。



図 シュテーデル美術館（左）と「地理学者」（右）

（2014年8月1日 橋爪孝介 撮影）



学会からのお知らせ

<会計委員会からのお知らせ>

1. 会費納入のお願い

多くの方々から会費の納入をいただいておりますが、若干名、過年度の会費納入がお済みでない方もいらっしゃいます。未納の方は、「地理空間」第7巻2号に同封した振込用紙でお支払いください。納付したか不明な方や振込用紙をご希望の方は、事務局までお問い合わせください。大学を通じて電子振込みをされる場合には、必ず氏名と所属先の明記をお願いいたします。

[年会費の振込先]

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00120-5 口座番号：779957

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店（セ）ロイチキュウテン）

預金種目：当座 口座番号：0779957

受取人名：チリクウカンカ” ツカイ

(ウ) 年会費

一般会員 4,000 円 大学院生会員 2,000 円

学生会員 1,000 円

2. 「地理空間学会学術基金」の募金について

「地理空間学会学術基金」の募金活動について、会員の皆さまの一層のご理解とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

[地理空間学会学術基金の内容]

○名 称：地理空間学会学術基金

○目 的：地理学の優れた研究者を育成することを目的として、その研究活動の充実を図るための資金として活用する。

○募集対象：本学会の活動理念を理解し、本寄付の趣旨にご賛同いただける方。

○ご依頼額：1 〇 2 万円（何〇でも可能です）

[振込方法]

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00150-3 口座番号：707452

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店（セ）ロイチキュウテン）

預金種目：当座 口座番号：0707452

受取人名：チリクウカンカ” ツカイカ” クシ” ユツキ
キン

※ 基金への寄付をいただいた方のお名前は、機関誌「地理空間」やホームページ等に掲載させていただきます。お名前の掲載をご希望でない方は、「匿名希望」とご記入ください。不明な点は、事務局までお問い合わせください。

<編集委員会からのお知らせ>

1. 次号以降の投稿について

機関誌「地理空間」の原稿は随時受け付けており、査読を経て受理された論文から順次掲載して参ります。内容は最新の論争から時事性、トピック性の高いテーマ、丹念な調査に基づく活きのよい事例研究まで幅広く受け付けております。会員の皆様の活発な投稿をお待ちしております。投稿規定や執筆要領については、地理空間学会ホームページ

をご覧ください。

2. 定期購読のお願い

本学会の活動を知っていただくため、会員の皆さまの研究室や大学・高校の図書館等での「地理空間」の定期購読をご検討いただけますようお願い申し上げます。ご購読いただける場合には、学会事務局までお知らせください。

3. 「地理空間」掲載論文のリポジトリ等への掲載について

掲載誌が刊行されてから半年を経過した場合には、大学

等の学術リポジトリや著者本人のホームページ等へ自著の論文の掲載を認めます。掲載論文の電子ファイルが必要な方は、学会事務局までご連絡ください。



コラム「わたしのフィールドから」

石坂 愛（筑波大・院生）

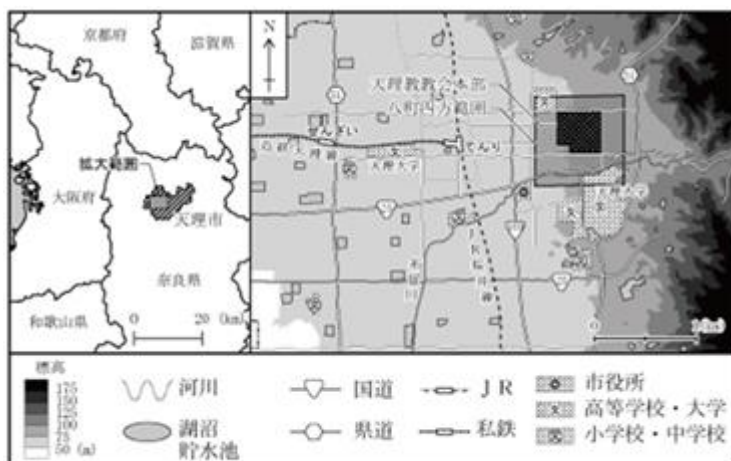


図 研究対象地域

私のフィールドとする奈良県天理市は、奈良県北部に位置し、JRと近鉄の通うことにより生じる利便性から、奈良市や大阪市、京都市のベッドタウンとしての性格を持ちます（図）。天理駅周辺は都市化が進むものの、北部・西部・南部は水田をはじめとする農地が広がり、この土地本来の姿が伺えるようです。この長閑な農村景観の中で、ある日突然天からの啓示を受け、天理教を開教した中山みきもまた、綿作農家の主婦でありました。

天理市では、天理教信者による宗教的実践が毎日みられます。17歳を過ぎた信者は、通過儀礼として三ヶ月間天理市に滞在し、修養科と呼ばれる学び舎で教義・教理の勉強に励みます（写真1）。その間は、市内の至るところにある詰所に宿泊し、他の信者と寝食を共に過ごします。黒の法被を纏う信者たちの宗教的実践は、お手ふりをしながら御神楽歌を歌い、神殿でおつとめを行うだけではありません。市内での美化活動や外国人・聴覚障がい者に対する通訳ボランティアなどに積極的に参加し、教理に基づき生きる喜びを表現します。



写真1 修養科に集まる天理教信者
(2013年1月 石坂撮影)

しかし、この教理や宗教的実践が地域住民と葛藤を生むこともしばしばあります。教団は、地域住民と共存しながら、聖地における宗教的アイデンティティを保つために、聖なる場所を創り出そうと考えました。それが、神殿を中心とした約870m四方を赤瓦の城郭建築（おやさとかた）で包囲する計画、「八町四方構想」です（写真2）。既に都市化の進んだ天理市において、この構想の遂行は前途多難なものでした。

1838 年に開教した天理教は明治維新と共にその発展を遂げ、国家神道を進める明治政府の権威による弾圧に苦しましました。1903 年には『天理教教典』を天皇崇拜の教えに基づいた内容に改訂し、その甲斐あって 1907 年には教派神道の一派となり、教団としての存命に成功しました。第二次世界大戦後、天理教が教派神道からの独立を宣言し、本来の宗教的イデオロギーを取り戻そうと奮闘していた頃、我が国は都市化のダイナミクスの渦中にありました。天理の地もまた市制施行という課題に面し、教団は天理市を聖地としながらも、市の発展に貢献し、俗世界とのバランスを保つ方向性を定めました。これを受け、現代風に教義・教理を改訂し、1984 年に現在の『天理教教典』が公開されました。

このように、歴史的背景に沿って天理教の教理は変容してきました。反対に、信教の自由が認められ、教派神道からの独立宣言をした後も、明治政府による弾圧を背景として生まれた教理が強く残る様子も見られます。現在、教団ないし信者は、どの時代に作られたどの教理を信念として

宗教的实践を行い、それが聖地において地域住民との間にもどのような葛藤をもたらしているのか、あるいはどのように聖地に貢献しているのか。そしてそれは、幕末維新から終戦までの宗教弾圧を乗り越えた他の新宗教と重なる部分があるのではないかと。または宗教という枠を超え、様々な主体のイデオロギー・コスモロジーを持つ地と共通点があるのではないかと。それが私の生涯の研究テーマです。



写真2 参道からみたおやさとかた
(2015年4月 石坂撮影)

編集後記

昨今、御嶽山や口永良部島で噴火が起き、箱根山は噴火の予兆がみられ、小笠原諸島沖で震源の深さが 682km の地震が発生するなど、日本列島は揺れ動いています。火山活動の早期沈静化を心より祈っております。

第 8 回大会が筑波大学筑波キャンパスにて 6 月 20 日に開催されます。翌 6 月 21 日には千葉県柏市での巡検を企画しております。皆様、ふるってご参加ください。

ニュースレターでは学会に関連した情報を適宜掲載していきますので、掲載すべき情報やご要望がございましたら、事務局までお寄せください。最新の情報は学会ホームページで随時更新しております。本会では、会員間の情報交換の手段として、メーリングリスト (jags-ml@geoenv.tsukuba.ac.jp) を開設しております。すでに多くの方にご参加いただいておりますが、まだ登録されていない方でメールアドレスをお持ちの方は、ぜひご参加ください。

地理空間学会ニュースレター 第 23 号

発行日：2015 年 6 月 12 日

発行所：地理空間学会事務局

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

筑波大学生命環境系地球環境科学専攻内 地理空間学会事務局

TEL/FAX 029-853-6873

E-Mail geospace@geoenv.tsukuba.ac.jp

URL <http://jags.ne.jp/>